

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
<p><b>ただしく・やさしく・たくましく のびゆく西っ子</b> ～心も体も『元気』な子どもの育成～</p>	<p>① 子どもの安心・安全が保障される学校 ・わかる楽しい授業づくり・安全教育の充実と環境づくり・異学年の交流と仲間づくり</p> <p>② 個性に寄り添い、きめ細かな指導を工夫する学校 ・特別支援教育の充実・個の能力に応じた支援と授業改善・ICT機器の利活用</p> <p>③ 地域と共にあり、開かれた教育課程を実現する学校 ・地域協働体制の確立・新指導要領への適切な移行・開かれた教育課程と情報公開</p>

<p>達成度</p> <p>A: ほぼ達成できた</p> <p>B: 概ね達成できた</p> <p>C: やや不十分である</p> <p>D: 不十分である</p>
--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

**① 子どもの安心・安全が保障される学校 … ただしく**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・授業改善による確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、全職員による1回以上の公開授業を実施する。</li> <li>・校外からの講師招聘や実施される公開授業への参観を機会あるごとに実施し、先進的な情報の習得と全職員の共通理解に努める。</li> <li>・全国及び佐賀県学習状況調査での正答率を、県平均及び武雄市平均と同等を目指す。</li> <li>・児童の学習内容の定着を図るために、保護者アンケート「学校は子どもがよくわかるように授業や教材を工夫している」においてA評価を50%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、指導案の簡略化を進め、日常的に授業を見合うことを通じて、教師の指導技術の向上に努める。</li> <li>・センター講座や各種研修会に参加した職員から、全職員へのミニ伝達講習会を行い、職員の授業改善に生かす。</li> <li>・校外からの講師招聘を実施し、本校の指導法の技術向上に努める。</li> <li>・統一の学習教材使用や西部型授業など、系統的な指導に努め、学力の基礎・基本の定着を目指す。</li> <li>・年間の授業参観の回数を増やしたり、学力向上だより「伸びろ！西っ子！」を『発行したりすることで、保護者の学力向上への啓発を促す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、指導案を簡略化し、研究テーマに沿って全職員による1回以上の公開授業を実施することができた。初任者や教育実習生へ向けての示範授業も実践できた。</li> <li>・校内研究の全体会では講師招聘を行い、授業力向上への共通理解を図ることができた。各種研修会に参加した職員からのミニ伝達講習会は回覧を通じて行い、指導法向上につなげた。</li> <li>・統一の学習教材使用は、ドリルやワークテストで実施することができた。4月実施の全国及び佐賀県学習状況調査について、夏休みに全職員で分析を行い、今後の取組を決定し、振り返りをしながら日々の実践に生かすようしてきた。</li> <li>・保護者アンケート「授業や教材の工夫」においてA評価は47.1%であった。学力向上だよりや学校、学級だよりで保護者への啓発を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の校内研究の課題を把握し、次年度に向けて全職員で共通理解を図っていく。</li> <li>・西部型授業に継続して取り組み、授業力向上に努める。</li> <li>・基礎・基本の定着を図るためのドリルやワークテストと活用力を高めるためのワークテストを統一教材として取り入れ、系統的な指導を引き続き行う。</li> <li>・保護者への啓発については、様々な立場から継続して行っていく。</li> </ul>
教育活動	○ICT利活用教育	・指導法の改善につながるICT機器の効果的な利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業実践を、全学級が研究授業や授業参観で公開する。</li> <li>・「スマイル学習」の実施率を、60%以上に上げる。</li> <li>・ICT機器の特色を生かした効果的な指導方法を全職員による研究実践で探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の利活用による「わかる・できる」授業を目指して、日々の実践を積み重ねていく。(タブレットの利用、「スマイル学習」など)</li> <li>・ICT支援員を活用した教材開発や、実践の共有を実施し、校内研究の授業改善と連動させながら、ICT利活用を向上させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業実践については、研究授業や授業参観での実践はもちろんのこと、日々の授業で活用することができている。</li> <li>・「スマイル学習」については、学年によって取り組みに差があった。</li> <li>・ICT支援員と協力して研修を実施することができた。実践を共有する場を設けることはできなかったが、研究授業等で、実践の共有を実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいアプリケーションの実践の共有があまりできなかったため、共有の機会を増やし、利活用の向上を目指していく。</li> <li>・先生方の困り感や疑問を把握し、要望に沿った支援や実践紹介を行っていく。</li> </ul>
学校運営	○教職員の資質向上	・新たな教育改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の職員の目標や課題に合わせた研修計画を実施し、職員アンケートによる達成率を7割以上に高める。</li> <li>・新指導要領移行に対する諸準備を終わらせ、31年度からの事前対応を可能にさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究で学んだことを日常的な取組となるよう、助言する。</li> <li>・先生方の外部機関への研修参加を推奨し、成果について伝達講習を実施する。</li> <li>・初任研の先生を中心にOJTを行うことで、ミドルリーダーの育成も行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究の日常化と学力向上を目指し、全職員が資質向上に取り組んでいた。「わたしの教育実践」レポートにもその成果が表れていたが、個々の取組で完結している部分が多い。教師アンケートにおいては、「校内研究」「道徳の授業の充実」の項目の評価が低かった。今後は、成果や課題を共有化し、研究や実践を深める必要がある。</li> <li>・旅費の事情もあり、対外的な研修参加が難しかった。</li> <li>・初任者にはそれぞれの先生授業参観等いろいろな形で関わり、ミドルリーダーとしての意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究については、学年間・単元間・教科間の系統性、日常化に向けた継続性を意識した取組を行う。また、そのことを教師や児童が絶えず意識できるもの、可視化できるものを作る。</li> <li>・研究や研修内容をさらに深めるために、また、職員一人一人のキャリアアップに向け、職員研修の場を工夫し、機会を設ける。</li> <li>・学級のルール、学習の習慣づけ、家庭学習については、全校で統一して取り組むことを決め、全校集会等で全校児童に指導する。集会での周知したことは、必ず学年・学級で再度、指導を行う。</li> </ul>

**② 個性に寄り添い、きめ細かな指導を工夫する学校 … やさしく**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・異学年交流・体験活動の充実 ・特別の教科道徳の授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「楽しんで学校に通う」のA・B評価を、合わせて90%以上に上げる。</li> <li>・平和集会や人権集会の内容を、これまでの反省を生かして改善する。</li> <li>・自然を愛する心を育てる。</li> <li>・特別の教科道徳の授業を、そのねらいを踏まえて充実させる。教師アンケート、「道徳の授業の充実」を70%以上に上げる。</li> <li>・なかよし活動の実践を通して、思いやりの心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12班の縦割り班(なかよし班)を編成し、青空教室や、なわとび大会、縦割りそうじなどを実施する。</li> <li>・8月に平和集会、12月に人権集会を実施する。</li> <li>・可能な限り児童の手にゆだねながら、年間を通して「花いっぱい運動」に取り組む。</li> <li>・6月のふれあい道徳をはじめとして、全学年で道徳の授業研究、改善に取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートで、「楽しんで学校に通う」のA・B評価を、合わせて90.6%であった。</li> <li>・12班の縦割り班を編成し、縦割り掃除や青空教室、興亜山掃除など、年間を通して異学年交流ができた。</li> <li>・平和集会では老人会婦人部の方々においていただいた。人権集会では、これまでの反省を生かして内容を改善して取り組むことができた。</li> <li>・ふれあい道徳では多数の保護者の参観があった。また、道徳の授業の充実について、学校評価教師アンケートでは、72%の教師が大体できたと評価した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童減少により12班での縦割り班活動が難しくなってきたため、来年度は、6班で編成する。</li> <li>・平和集会で老人会の方をお招きすることについては、検討が必要である。</li> <li>・道徳で獲得した価値観が集会や学校行事等の実践に活かせるように、他教科との関連も配慮した学習指導計画を立てる。</li> </ul>
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、スクールカウンセラー、保護者などの連携を図り、いじめの早期発見に努める。</li> <li>・教育相談体制を充実させ、保護者アンケート「気軽に相談できる」項目のA・B評価を85%以上に上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回いじめに関するアンケート(月のこころ)を実施し、結果を共有しながら迅速に指導を行う。</li> <li>・週1回の教育相談連絡会を行い、職員の共通理解を図る。</li> <li>・どのクラスもスクールカウンセラーの協力のもと、グループエンカウンター授業を取り入れる。</li> <li>・相談しやすい体制づくりのため、保護者からの相談に対しては、管理職が窓口となって誠実に対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートで、「気軽に相談できる」の項目のA・B評価が91.8%で、昨年度の85%を上回った。</li> <li>・気になる児童について、週1回の教育相談連絡会で教職員の共通理解を図ったり、ケース会を持ったりしたことで、迅速な対応ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーに各教室を参観してもらい、より早く気になる児童の発見に努める。</li> <li>・月1回いじめに関するアンケート(月のこころ)の情報共有を継続して行う。</li> <li>・どの職員も、保護者が話しやすい雰囲気づくりに努める。</li> </ul>
教育活動	○特別支援教育の充実	・一人一人の個性や特性を生かした指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制を定期的に見直し、実情に合わせて充実させる。</li> <li>・特別支援学校の巡回相談など、外部の知恵とノウハウを積極的に導入して、教職員の専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に沿って校内委員会や必要に応じた支援会議を実施し、児童の困り感を把握するとともに、適切な対応のための支援体制の共通理解を図る。</li> <li>・講師招聘の特別支援教育研修会を実施したり、巡回相談(3学級)の授業を公開したりする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に沿って、校内委員会や支援会議を実施して、児童の指導や支援について共通理解を図り、児童の実態に応じた対応をすることができた。</li> <li>・講師招聘の特別支援教育研修会を実施したり、巡回相談を利用したりすることで、教職員の専門性の向上を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じた指導や支援に、迅速に対応できるように、適宜、支援会議を実施し、教職員が共通理解して、指導支援を行っていくようにする。</li> <li>・校内特別支援教育研修会の実施と巡回相談の利用を継続して行う。</li> </ul>

**③ 地域と共にあり、開かれた教育課程を実現する学校 … たくましく**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・総合的な健康・安全教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで、「体を動かすことが好き」な児童を90%以上に上げる。</li> <li>・う歯の治療率を50%以上に上げる。</li> <li>・身体や心の健康について関心をもち、予防や行動化へつなげる児童を育てる。</li> <li>・給食指導や食育の授業を通して、食事と健康に関心を持つ児童を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の学習で、特性に触れることができるように授業を仕組む。</li> <li>・委員会主催の「みんなで遊ぼう会」やスポーツチャレンジに取り組みせ、運動する機会を増やすようにする。</li> <li>・治療勸奨を工夫し、治療率へつなげるようにする。</li> <li>・保健学習や保健指導を通して、心身の健康に関心を持たせるとともに、予防法や対処法を身に付けさせる。</li> <li>・栄養教諭をTTに加えるなど、全学年で食に関する授業を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで「体を動かすことが好き、まあまあ好き」と回答した児童は94%となり、十分に目標を達成できたと考える。</li> <li>・クラスやなかよし班でスポーツチャレンジに取り組み、運動の機会を確保することができた。</li> <li>・保護者面談や保健だより等で、う歯の治療を呼びかけたが、治療率へつなげることができなかった。</li> <li>・保健指導・児童委員会活動を通してインフルエンザ予防等に関しては情報発信した。</li> <li>・栄養教諭をTTとした食に関する授業は、1学年に留まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで「体を動かすことが好き、まあまあ好き」と回答した児童は94%だったが、昨年度に比べて少し割合が減ったので、声掛けや普段の授業内容を再考していかなければならない。</li> <li>・個別に治療の確認をする文書を作成してさらに治療を勧めていこうと思う。</li> <li>・感染症予防については流行の兆しの情報を確実に早めの指導をしていきたい。</li> <li>・食に関する授業を全学年で行うことができるよう、年間計画にきちんと位置付ける。</li> </ul>

<p>学校運営</p>	<p>●志を高める教育</p>	<p>・地域の教育力活用と学校情報の積極的公開</p>	<p>・地域の生涯学習プログラムと学校の教育課程との融合を図る。 ・児童アンケートによる、ノーテレビデーの実施率を90%以上を目指す。 ・保護者の授業参観参加率、80%以上を目指す。 ・保護者に向けての情報モラル教育を充実する。 ・全児童が北海道の「雄武町」との交流に参加する。</p>	<p>・地域行事である敬老会、弓野市やふれあい祭りにグループ学年ごとに児童が参加する。 ・図工や音楽、総合的な学習の時間を活用し、地域から外部講師を招いて全学年が体験活動を行う。(竹細工、焼き物作り、茶道教室、琴体験等) ・前年度に引き続き「花まるタイム」を全学級で実施し、地域住民に児童の学習の様子を披露する。 ・町主催の運動会や相撲大会に学校も共催を組み、児童の活動の様子を広く地域住民に公開し啓発する。 ・各月初めにノーテレビデーカードを配布すると同時に、学級育友会等で実施状況を保護者に周知する。 ・学校からの通信やHPなどを利用し、学校行事の周知を保護者及び地域住民に回り、積極的な参加を促す。 ・懇談会などで情報モラルについても話す機会を設ける。学んだことを家庭で実践するよう呼びかける。</p>	<p>A</p> <p>・地域行事は、学校行事や学習内容とタイアップさせ定例化されており、地域にもそのことを周知させることができた。 ・学校便りを頻繁に出し、多くの場所に掲示したり「花まる支援員」の方に配布したりして、情報を発信してきた。保護者アンケートの結果では「学校の教育方針や教育活動内容をわかりやすく伝えている」の項目で、約98%から肯定的な回答を得ることができた。 ・授業参観の参加率は85%前後、ノーテレビデーの実施率は90%前後である。 ・SNSやオンラインゲームなど情報モラルについては、これまで学校便りや保健便り、掲示用ポスター、懇談会で何度も周知と啓発を行ってきた。しかしながら、家庭で、ネットやゲームについて約束を決めている家庭は、80%に留まった。 ・雄武町の交流とおして、西川登町や武雄市への郷土愛、地域の方への感謝の気持ちをさらに高めることができた。</p>	<p>・地域の方と連絡を取り合ったり、地域のことを調べたりして、現在行っていることを継続できるようにしていきたい。 ・今年度に引き続き、授業参観や地域行事の時期を検討し、職員の負担軽減をしながら、質を落とさず魅力的な内容になるよう工夫をする。 ・情報モラル教育については、繰り返し指導をする。保護者にアンケートをとり、その結果をもとに話をする等、懇談会の内容をさらに充実させる。</p>
<p>学校運営</p>	<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>・業務内容の精選</p>	<p>・会議の効率化を図り、会議時間を20%削減する。 ・見直しをもって職務に取り組むことにより、効率化を図る。 ・職員の協働意識を高め、児童への指導の充実を図る。</p>	<p>・会議資料を事前に配布し、各担当毎に提案時間を設定する。連絡事項は極力掲示板を活用する。定例職員会議は1時間内で終わるようにする。 ・行事が充実、精選されるよう、管理職が声掛けをする。振り返りを共有化できるよう、パソコンの記録欄を作成する。 ・指導についての情報交換や共通理解を図る場をこまめにもつ。問題等起こった時にも全職員で迅速に対応する。</p>	<p>B</p> <p>・業務改善については、今年度新たに取り組んだことを示し、夏季休業中に話し合いの場をもったことで、徐々にではあるが意識が高まってきた。 ・職員会議は、職員も所要時間を考えたことで意識が高まり、時間削減につながった。しかし、初めのうちは、それが職員の多忙感の軽減にはあまりつながっていないようであった。内容がしっかりと先生方に入っていないことに因るものと考え、事前に、四者会で検討し議論すべきところを焦点化してスムーズな学校運営につなげているところである。また、地域行事についても、内容を整理することで、見直しをもった取り組みにし、来年度の教師の負担軽減につなげているところである。 ・行事・取り組み終了時の振り返りを生かした提案、来年度に向けてのデータの整理を行った。 ・定例の情報交換や迅速な支援会議により、大きな問題に発展することが少なく、結果的に業務改善につながった。</p>	<p>・今後も先に先に行事予定を出したり会議の参考資料を配付したりすることで、見直しをもった取り組みができるようにする。 ・業務改善は、学校全体の教育活動や業務と、教材研究や学級通信等個人で行うものと分けて考え、個人で取り組むものについては職員の意識を変えていく。 ・職員会議の回数を減らすことも検討したい。</p>

<p><b>4 本年度のまとめ・次年度の取組</b></p> <p>○【本年度のまとめ】</p> <p><b>重点目標① 子どもの安心・安全が保障される学校・・・正しく</b> 全職員が研究授業を行い、学力向上への進捗状況を示すことで意識が高まり、授業力の向上を図ることができた。教職員の資質向上については、職員個人においては個別の成果や伸びが見られたが、それらを職員全体で共有するところまでは行かなかった。次年度は、課題を共有化し、系統的、継続的、反復的に行うことができるよう方法を工夫し、学力向上とともに職員全体の資質向上につながるようになっていきたい。また、ここ数年の課題である「読書」については、家庭と連携しながら改善を図ってきたい。</p> <p><b>○重点目標② 個性に寄り添い、きめ細かな指導を工夫する学校・・・やさしく</b> 心の教育については、年間計画に基づき全職員で取り組み、目標をほぼ達成することができた。いじめ問題については、毎月アンケートを実施し、結果を全職員で共有することでいじめの早期発見、早期対応に生かすことができ、今年度、いじめや不登校に関する事案はなかった。今後も「子どもの笑顔」を中心に据えた学校運営を全職員で行ってきたい。特別支援教育の充実では、支援会議を定期的に行うことで児童一人一人の実態に応じた支援や対応を行うことができた。保護者アンケートで「気になることを気軽に相談できる」と回答した保護者は昨年度より増えたが、今後は、さらに保護者が相談しやすくなる雰囲気づくりを目指したい。</p> <p><b>○重点目標③ 地域と共にあり、開かれた教育課程を実現する学校・・・たくましく</b> 健康・体力づくりについては、身体を動かすことが好きという児童が昨年度を上回っていたので、目標を十分達成することができた。志を高める教育については、地域の方が学校行事に参加するだけでなく、児童も地域の行事に積極的に参加することができ、地域との交流を深め、地域のよさを感じることができた。教師アンケートでも90%の教師が、地域と連携した教育が目標どおりできたと回答している。教育目標や取組は、学校だよりや学級通信で紹介したり、地域や育友会の会議等で話題にしたりすることで周知徹底を図った。今後もあらゆる機会を通して、学校の取組を理解してもらえるよう手だて等を工夫したい。業務改善・教職員の働き方改革の推進については、検討を重ねてきたがまだ改善すべき点も多い。今後は、教職員の意識改革と、疲労感軽減、働きやすさに向けて工夫する必要がある。</p> <p>【次年度の取組】</p> <p>・「凡事徹底」を合言葉に、くつろえ、あいさつなど共通した取組を行う。また、来年度も継続して「月のころ」や教育相談を実施し、いじめ等の未然防止に向け、子どもの小さなサインも見逃さない、アンテナ、意識づくりを図ってきたい。</p> <p>・開かれた学校づくりの推進に向けて、家庭・地域と連携・協力し、子どもの出番・役割・承認の場を数多く設定し、学校・家庭・地域で「心も体も『元気』な子ども」を育成したい。</p>
--

●は共通評価項目、○は独自評価項目